



[入選] 日立建機株式会社 土浦工場 事務管理棟

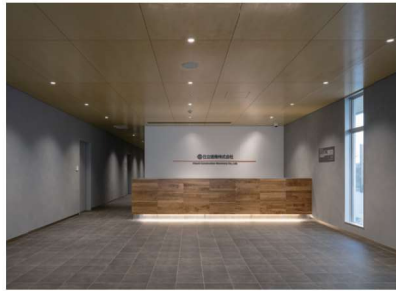
●株式会社 日立建設設計 住所/東京都千代田区内神田3-11-7 電話/070-2198-6497
●建物所在地/茨城県土浦市神立町650番地 ●建物用途/事務所
●構造/木造 ●建築面積/2,802.47㎡ ●延床面積/5,468.01㎡

快適性、多様性、コミュニケーションを キーワードにした空間

延床面積5,000㎡を超える木造2階建ての大規模木造オフィスです。中央コア部分は耐火建築物(90分耐火)南北棟は準耐火建築物(45分準耐火)であり、木造在来軸組工法を採用。柱・梁は燃えしろ設計として現し、執務エリアや吹抜部には積極的に自然採光や自然換気可能な環境配慮型のオフィスです。

敷地は、工場の一角に位置しています。前面道路に面した企業の顔となる場所である為、新しい顔づくりにふさわしい施設計画としています。外装

材にはアルミパネル材等を採用、軒先と天井材にはシナ合板材を用いて高さ揃え、内外に繋がりのある意匠デザインとし、工場群と周囲の景観に溶け込む施設計画としました。従業員によるワークショップの意見により抽出した「快適性、多様性、コミュニケーション」のキーワードにより、施設計画を実現しています。木造らしい温かみのあるつくりとそれに合う塗装色の壁を採用することで、心地よい空間づくりを目指しました。



[入選] 至誠館

●株式会社 三上建築事務所 住所/茨城県水戸市大町3丁目4番36号 電話/029-224-0606
●協力事務所 電気/岩坂設備設計事務所 機械/NASファシリティーデザイン室 施工/清水建設株式会社 関東支社
●建物所在地/茨城県土浦市真壁4丁目2354番 ●建物用途/寄宿舎(社員寮) ●構造/RC造一部S造 ●建築面積/884.47㎡ ●延床面積/1,484.44㎡

企業の比類なき品格が醸し出されている社員寮

至誠館は県内有数の企業の社員寮である。外国人、シングルマザー、障がいのある方も抱擁する、茨城県のリーディングカンパニーとしての品格の体現であり、会社で働きたいと思えるインセンティブとなる。敷地は交通量が多い国

道125号に面する奥行きをもつ土地である。L型の平面形状の建物の奥行方向の一辺に男子寮を、奥の一辺に女子寮を配置した。コンクリート打放しの壁が道路と平行に立ち、越境する2階部分が通行する車からのアイキャッチとなる。その2階部分が長手方向に浮遊し、サーフィスのアルミ製水平ルーバーが奥行を強調する。入口のコンクリート打放しの門扉には黒御影石の塊が挿入されている。刻まれた「至誠館」の文字は、社長の思いに応えた会長の筆である。そこに閃光商事という企業の比類なき品格が醸し出されている。



[入選] 平磯保育園

●有限会社 吉田建築計画事務所 住所/茨城県石岡市石岡1-1-8 電話/0299-56-3246
●協力事務所 構造/株式会社 シェルター建築設計事務所 電気/軍司設備設計事務所 機械/自土設備設計事務所
●建物所在地/茨城県ひたちなか市平磯町5042 ●建物用途/保育園 ●構造/木造 ●建築面積/787.53㎡(屋外倉庫除) ●延床面積/1,170.59㎡(屋外倉庫除)

この地で産出されるアンモナイトをモチーフにした園舎デザイン

計画地は東側に白亜紀層が現れる平磯海岸が眼下に見え、一面に広がる畑の中に漆線が走る姿が時折見えます。また開園に先立ち、寄り駅となる「美乃原学園駅」が開業しました。創立80年を期に建て替えとなり、新たな子育ての拠点づくりが求められました。この地で産出されるアンモナイトをモチーフに、過去(歴史)と未来をつなぐ「らせん」を園舎デザインの骨子としました。園舎は木造の準耐火建築物。造作材、建具材、幼児用の椅子・机を県産材(杉・檜)で作りました。恵まれた自然環境を積極的に取り込むために、南側

に弧を描いた幅3.7mの縁側の空間を設け、その先に園庭を見守るようにテラスを配置しました。2階には海が見えるルーフトラスを設け、プール遊びやグランピングも楽しめる大屋根の半屋外空間を創出しました。コロナ禍の今、給食

の場にも活用。三密を避けた給食は子どもたち及び先生方のストレスを軽減し、のびのびと食事を楽しています。



[リフォーム賞] 蔵図書館

●有限会社 吉田建築計画事務所 住所/茨城県石岡市石岡1-1-8 電話/0299-56-3246
●協力事務所 構造/谷亮介構造設計室 ●建物所在地/茨城県かすみがうら市高倉92 ●建物用途/図書館
●構造/木造 ●建築面積/21.55㎡ ●延床面積/28.95㎡

新たな地域コミュニティの場として貢献すべく蘇った古蔵

かすみがうら市高倉地区は、古い民家が多く残り昔ながらの景観を保っている歴史ある地域である。一方でこの地域は市の最北部に位置するため図書館等の文化施設から離れており、住民が集える交流の場や文化施設が不足していた。そこで地域の旧家に残る古蔵を、「かすみがうらまちづくりファンド助成事業」の採択を受けて、地域住民やサイクリストに開かれた小さな図書館に改修した。

外壁は伝統的左官技術を有する職人によって漆喰塗となまこ壁を復元した。その一方で内部は整然とした本棚と螺旋階段の挿入によって重厚な蔵の既存部との対比を強調し、蔵特有の構造を活かしつつ新しい機能である図書空間の魅力に昇華させた。1階ではミニマルな水回りや薪ストーブ・ベンチの設えによって、小さな空間の中で自由にお茶や読書を楽しめる。こうして古蔵は、地域の景観と建物の文化的価値を受け継ぎながら、新たな地域コミュニティの場として貢献すべく蘇った。

